

国際的な銀行・金融グループを目指して

中央財経大学学生代表

見学日時：2015年11月30日（月） 09:30－11:30

見学場所：三井住友銀行

見学概要

2015年11月30日の午前、第17回「走近日企・感受日本」訪日団は東京都千代田区にある三井住友銀行を訪れ、約2時間の見学をおこなった。

午前9時30分に見学が始まり、最初に企業側スタッフよりスケジュールの説明があり、次いで三井住友銀行の沿革と業務紹介のDVDが放映され、その内容の多彩さに私たちは引き付けられた。

その後、国際統括部の都留室長から歓迎のあいさつと三井住友銀行の概況紹介があった。私たちはその紹介から、三井住友銀行では企業に対しコンサルティング、各種アドバイザリー業務および資金調達・運用等のサービスを提供していることを知り、また同銀行は呉服業を営んでいた三井と銅鉱業を営んでいた住友が合併してできたものであることを初めて知った。そして都留室長はこれまで北京や上海などへ多くの出張経験があり、私たちはすぐに打ち解けた。



次いで、グローバル・アドバイザリー部の伊藤部長から三井住友(中国)有限公司の概況説明と質疑応答があった。伊藤部長は1985年から中国を訪問しているため、会場の私たち学生よりも長い時間中国語を使っている、中国語を学んでいるおじさんだと、自身のことをユーモラスに例えられていた。そして質疑応答のコーナーでは、三井住友銀行はオンライン業務提携に注力し、日本で最初に銀聯と提携した企業であることを知った。この他、中国はTPPメンバーではないが同銀行の対中国市場の経営戦略には影響しない旨、伊藤部長より回答をいただいた。

最後に、銀行のスタッフの引率の下、私たち訪日団メンバーは本店を見学し、さらに同銀行の皆さんと記念撮影をして今回の訪問は円満に終了した。

知っていますか？

問：液晶タッチパネルの柱と地球儀を知っていますか？

答：三井住友銀行の歴史と発展状況の見学の際、私たちはライジング・スクエア2階の複数の柱が立っている部屋(金融/知のLANDSCAPE)へ案内された。それらの柱には躍動する画面が映し出されており、最初はただのモニターだと思っていたが実はタッチパネルになっていて、異なるパネルを押すと、それらの具体的な内容などが表示される仕組みになっていた。こうしたハイテク設備で100年前の歴史を知るのはまた変わった体験であった。



この他1階のアースガーデンには大きなデジタル地球儀があった。その表面はタッチパネルで、様々な地域の状況を示し、コントロールパネルによって大気の状況や地表の状況などを示すことにより、地球のダイナミズムを生きた形で体感することができる。

感想

今回の三井住友銀行の見学で印象深かったことが三つある。一つめはグローバル化である。三井住友銀行は世界の38の国に71ヵ所の拠点を設けており、外国業務の量は総業務量の44%を占めている。こうしたグローバル化した戦略配置は、三井住友銀行により幅広い市場をもたらし、各国の資金により政府や企業へサービスを提供することを可能にしている。また三井住友銀行にはそれらを専門とするグローバル・アドバイザー一部と国際統括部があり、同銀行の強みが見て取れる。そして同部門の中国担当グループは現在人民元の国際化プロセスを推進中で、北京、天津、上海などに支店を構え、在中日系企業の各金融業務をサポートするなど中日経済交流において大きな役割を果たしている。

二つめはコンサルティングサービスである。三井住友銀行では預金や貸付等の業務に止まらず、財務アドバイザーを通じた戦略提案により、企業目標の実現をサポートしている。具体的にはまず始めに、顧客に対して投資環境、法務、労務、税務等の情報を提供する。企業の多くは国際取引の際、現地の経済状況や取引習慣を十分に把握していないため、三井住友銀行ではこうした企業へ様々な情報を提供することで企業の後顧の憂いを取り除いている。次に、企業再編や資金管理等の顧客が直面する問題に対するソリューションの提供である。こうしたコンサルティングサービスにより、三井住友銀行は一般の銀行の垣根を越え、より金融グループに近い性質とより高い実力を持つに至っている。

三つめは環境保全意識である。三井住友銀行は銀行でありながらも省エネと有害物質の排出削減に努めている。ホールで見かけたモニターには、当日の太陽エネルギー発電量が示され、また地球環境を示すデジタル地球儀もあった。こうしたことから、一見環境保全とさほど大きな関わりがない三井住友銀行でも、強い環境保全意識と社会的責任感を有していることがわかった。

今回の見学は非常に有意義であった。今後中国の各銀行の発展状況も把握し、今回の見学で感じたことと併せて一定の見方や提案などをしていければと思う。